

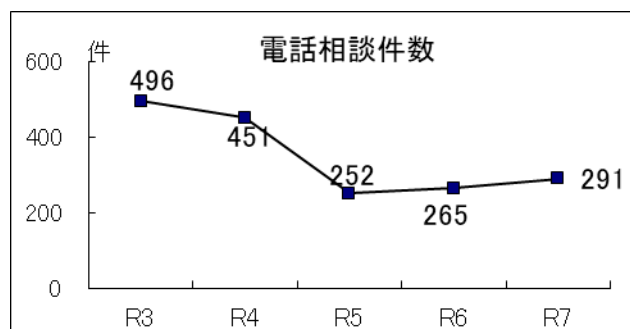
第2 地域福祉

1 住民主体の相談活動

番号	事業名	財源			
		自主 歳	補助	委託	事業
(1)	電話相談				

結果の概要

- 地域住民であるボランティアが同じ立場で話を聴き、相談者の気持ちに寄り添うことで、こころの悩みや生活不安等の訴えを傾聴した。
- 相談員会議を毎月1回開催し、情報共有及び対応方法の検討を行い、その中で出た意見をもとに研修を開催し、スキルアップを図った。
- 事業開始当初に未充足であった専門機関での相談窓口が整備されてきたことに加え、新規の利用者の大幅な減少等の状況を踏まえ、令和8年3月末をもって事業を終了した。終了に当たっては、相談者が混乱しないよう、電話でのアナウンス及びふくしの窓を活用して周知した。



実績等

<事業実績>

相談日	月曜日・水曜日・金曜日（祝日・休日を除く） 13時から16時まで
相談方法	相談専用ダイヤルによる電話受付
相談員	1人で担当（5人の交代制）
相談日数	146日
相談件数	291件
相談員会議	12回

<相談内容>

内容	件数	内容	件数	内容	件数	内容	件数	内容	件数
生計	2	年金	1	職業、生業	0	住宅	3	家族	13
結婚	1	離婚	1	健康、衛生	0	医療	2	精神保健	263
人権、法律	3	財産	2	事故	0	児童福祉	0	母子保健	0
教育、青少年			0	母子、父子福祉	0	高齢者福祉	15	苦情	5
心身障害児（者）福祉			0	ボランティア	0	その他	4		

※相談内容は、一回の相談で複数の相談内容がある場合があるため、一部重複あり。

分析・課題

- 継続相談者（257件）が全体の9割近くで、精神保健に関わる専門的な相談内容が多く、主訴が不明確な複合的な相談であるため、相談員が悩みながらも丁寧に対応した。そのため、相談員のメンタルヘルスケアの研修や相談できる場づくりを進めた。

○電話の匿名性により、相談のハードルを下げる一方で、継続的な関わりを求めている相談者との信頼関係の構築や継続支援につなげる仕組みづくりが課題であった。

番号	事業名	財源			
		自主 歳	補助	委託	事業
(2)	ふれあい福祉相談				

結果の概要

○令和6年度と同様、令和7年度も西部及び菊野台地域福祉センターの2か所で時間を短縮（10時～13時）し、4月～7月に実施した。

○利用者はコロナ禍以降減少したままであり、相談も0件が続いた。今後の事業の在り方について相談員とも検討した結果、事業開始当初に比べて新たな相談窓口が設置・充実し、困りごとや悩みごとを相談しやすい環境が整ったこと、また身近な地域に常設の居場所及びサロン活動等の交流の場が増加していることから、7月末をもって事業を終了した。

○事業終了に当たっては、地域福祉センターに案内を掲示するとともに、継続的に利用されていた方には相談員より直接お伝えし、混乱が生じないように努めた。

実績等

○利用者数と内訳

名称	相談場所	相談日	相談員	実績
菊野台	菊野台地域福祉センター 菊野台コーナー	水曜日 (祝祭日を除く) 10時～13時	各コーナー 1人担当 5人交代制	16回実施
西部	西部地域福祉センター 西部コーナー	月曜日 (祝祭日、第4を除く) 10時～13時		11回実施
	菊野台	西部		合計 27回
相談	0件	0件		① 0件
話し相手	57件	59件		② 116件
血圧	33件	51件		③ 84件
				① + ② + ③ = 200件

2 住民主体の交流活動

番号	事業名	財源			
		自主 歳	補助 市	委託	事業
(1)	ひだまりサロン事業				

結果の概要

○サロンの立ち上げ・解散
・新規立ち上げ：7サロン

・解散：5サロン

・令和8年3月31日時点の登録数：90サロン

※解散の主な要因は、スタッフ・参加者の高齢化による継続困難が挙げられる。

○スタッフ体制と支援者の連携

・約558人がサロンスタッフとして活動に参加。

・サロン応援スタッフ、地域支え合い推進員、地域福祉コーディネーター、ボランティアコーディネーターが連携し、立ち上げ・運営支援を行った。

○20周年記念企画の実施

・事業開始20周年を記念し、記念動画及び記念誌を作成した。

・10月9日に開催された調布市福祉大会の第二部で「20周年記念交流会」を実施し、記念動画及び記念誌を披露した。サロン応援スタッフの司会で進行し、各サロンのスタッフと参加者、式典参加者による合唱の他、会場内にサロンで作製された作品の展示やeスポーツの実演を行った。311人が参加し、活動者及び参加者に日頃の感謝を伝えるとともに、幅広い世代にサロン活動の趣旨を伝えることができた。

○その他の取組

・活動場所の変更や活動回数に関する相談に対応した。

・8月に「ひだまりサロン紹介冊子」を発行。

・サロン活動中の事故に備え、サロン便りにて保険周知を徹底した。

・「ひだまりサロン便り」にて情報発信（年3回発行）。

・令和6年度に実施した「高齢者の社会参加等の場の実態に関するアンケート」の結果及び近年の物価高騰を踏まえ、活動費の増額及び食事を提供するサロンに対する加算の新設を検討した。

実績等

○各サロン活動内容一覧

	サロン名	活動場所	活動内容	活動日、実績	備考
1	緑ヶ丘おしゃべりサロン	緑ヶ丘地域福祉センター	おしゃべり、ピアノ伴奏に合わせた歌、体操	第2火曜日 24回開催	
2	国領ひだまり	調布市市民プラザ あくろす	お茶、おしゃべり	第2・第4金曜日 20回開催	
3	ゆたかサロン	ライオンズマンション1階談話室	茶話会	第1・第3火曜日 23回開催	
4	ひだまり入間	入間地域福祉センター	茶話会、ぼけない君ビー玉	第3火曜日 11回開催	
5	そよ風サロン	個人宅、調布住宅 集会室	歌、体操、読書、学習会	第1月曜日、第4木曜日 24回開催	
6	トラジ会	西東京南部同胞生活 相談総合センター	食事、体操、相談、軽スポーツ	第1木曜日、第3土曜日 23回開催	
7	ひだまり菊野台	個人宅	茶話会	第4木曜日 4回開催	解散
8	ふれあいランチ	シルバーピア調布 染地集会室	食事、歌	第1・第4木曜日 19回開催	

第1部 第2地域福祉

9	きさらぎサロン	調布市文化会館たづくり みんなの広場	パッチワーク	第2水曜日 12回開催	
10	農園サロンののはな	西つつじヶ丘の畑	園芸	毎週火曜日 24回開催	
11	飛田給ひだまり	西部ふれあいの家	茶話会、健康体操、軽スポーツ	第2木曜日 11回開催	
12	農園サロンぴーまん	西つつじヶ丘の畑	園芸	月2回土曜日 24回以上開催	
13	調布ケアラーの会クローバー	調布市市民プラザあくろす	家族介護者の集いの場	第3木曜日 12回開催	
14	緑ヶ丘健康麻雀サロン	緑ヶ丘地域福祉センター	麻雀	毎週木曜日 24回以上開催	
15	緑ヶ丘一丁目自治会グリーンサロン2	緑ヶ丘ふれあい給食室	歌	第2・第4木曜日 24回開催	
16	野川芝桜の会	野川河川敷	芝桜の手入れ、野川清掃	第2・4日曜日 21回開催	
17	緑ヶ丘2丁目あきらさん家	ほんのもり	茶話会	第3月曜日	解散
18	アズランカ	個人宅	子育て、手芸、ワークショップ	第2・第4水曜日 21回開催	
19	つどい場カフェ	個人宅	介護について話し合う	第3月曜日	解散
20	ひまわり	ネオコーポ調布多摩川集会室	食事、料理、麻雀	第2水曜日、毎月末土曜日 24回開催	
21	童謡を歌う会シンガーズ・グリーン	緑ヶ丘地域福祉センター	歌う姿勢や身体の使い方等を学び、抒情歌や懐かしい歌等を楽しむ	第2金曜日 14回開催	
22	上布田大好きOG/OB会	上布田自治会館	食事、相談、ものづくり	第1・第3月曜日 22回開催	
23	染地ふれあいサロン	染地ふれあいの家	歌（ピアノ伴奏つき）、体操	第3水曜日 12回開催	
24	サロン木洩れ陽	調布市こころの健康支援センター別館	食事、おしゃべり	第2金曜日、第3月曜日 18回開催	
25	手話でひだまり in 富士見	調布市市民プラザあくろす	手話の勉強会	第4土曜日 9回開催	
26	自主トレたんぽぽ	富士見地域福祉センター	体操	毎週木曜日 24回以上開催	
27	なかま🌱町づくり	深大寺東第一自治会集会場	好きなものづくり、おしゃべり	毎週水曜日、第1・第3月曜日	

				24回以上開催	
28	金子ひだまり	国領3丁目第2アパート集会所	輪投げ	毎週水曜日 24回以上開催	
29	くすのき絆サロン	くすのきアパート集会所	水彩画、塗り絵、お茶会	第1・第3月曜日 24回開催	
30	メイプルカフェ	メドウイン調布	介護について話し合う	第2・第4水曜日 24回開催	
31	多摩川太陽グループ	下石原地域福祉センター	茶話会、体操、軽スポーツ、絵手紙、粘土、編物、出前講座、押し花アート	第2木曜日 9回開催	
32	花カフェ	シェアサロンラリス そんぽの家S調布	コーヒー、紅茶、菓子、会話	第1・第3火曜日 24回開催	
33	みかん健康体操	ライフタウン国領集会所	体操	月2～3回月曜日 24回以上開催	
34	ボーノ・ボーノ	調布市文化会館たづくり	体操	第1・第3火曜日 24回開催	
35	くすのき健康麻雀サロン	くすのきアパート1号棟集会所	健康麻雀	毎週木曜日、第1・第3土曜日 24回以上開催	
36	若葉カフェ	東部公民館	歌、アトラクション（人形劇）、ミニ勉強会、その他	第3水曜日 11回開催	
37	なごみ深大寺	深大寺地域福祉センター	歌（ハーモニカ伴奏）、折り紙	第4金曜日 12回開催	
38	なんてったってクラシック	染地地域福祉センター	主にCDによるクラシック鑑賞	第3水曜日 12回開催	
39	わかくさサロン	都営八雲自治会館	お茶会、頭の体操、小物作り	第3土曜日 12回開催	
40	ふじみ手芸とおしゃべりサロン	富士見地域福祉センター	前掛け、雑巾袋、カバー等の作製	第2・4水曜日 20回開催	
41	うたごえ喫茶 in 富士見	富士見地域福祉センター	ピアノ生演奏、歌	第3土曜日 10回開催	
42	オアシス深大寺	個人宅	茶話会、手芸、情報交換、出前講座、脳トレ	第1月曜日 10回開催	
43	テラ多摩川サロン	フィットネス&カルチャースタジオ Terra	体操	第1・3火曜日 24回開催	

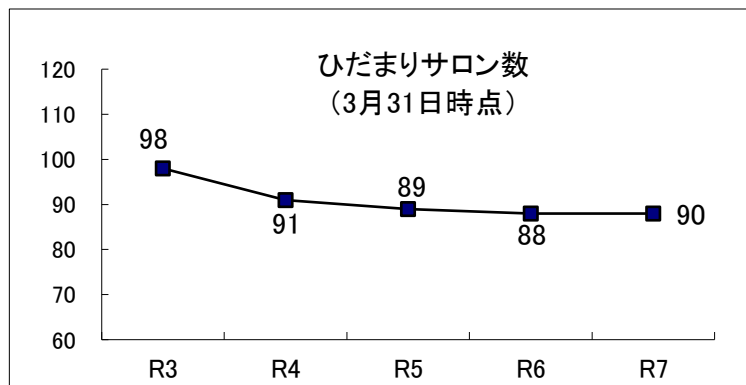
44	サン歩会	個人宅	茶話会、散歩	第1木曜日 4回開催	解散
45	おひさまカフェ	個人宅	相談、出前講座	第3金曜日 12回開催	
46	くすのきひだまり	くすのきアパート 集会室	カラオケ、お茶会	第2、4月曜日 24回開催	
47	早朝体操会	市役所前庭	健康体操、太極拳、サロ ン	土曜日を除く毎日等 24回以上開催	
48	りはびり麻雀の会	染地地域福祉セン ター	麻雀	毎週火曜日 24回以上開催	
49	AMK ふれあいネットワ ーク	朝日マンション国 領の諸施設	懇親会、同好会、各種イ ベント	活動項目により様々 (毎週～1回/年) 24回以上開催	
50	杜と光のサロン	アトラス調布ガー デンカフェ	輪投げ、おしゃべり	第1木曜日	休止
51	エンジョイピンポン	富士見地域福祉セン ター	ピンポン	毎週土曜日 24回以上開催	
52	山野園芸サロン	神代の杜 園庭	特養ホームの花・野菜づ くり、清掃活動、特養ホ ーム入所者との交流	毎週火曜日 他 24回開催	
53	ほっとカフェ談	西部地域福祉セン ター	談笑、朗読、フレイル予 防	第3金曜日、第5週 目のいずれか開催 20回開催	
54	談楽バードカフェ	富士見地域福祉セン ター	川柳、ピンポン	第4火曜日 2回開催	解散
55	ひだまりテニス	市民多摩川テニス コート	テニス	第2、4火曜日 18回開催	
56	寿会	緑ヶ丘地域福祉セン ター	今日を語り、明日を想う 生涯学習	第2金曜日 12回開催	
57	友悠麻雀初心者クラ ブ	緑ヶ丘地域福祉セン ター	麻雀	第2月曜日、第3水 曜日、第4金曜日 24回以上開催	
58	ズッキーニ	布田老人憩いの家 茶室	ペン習字、ウクレレ	第4月曜日 10回開催	
59	手話ダンスすずらん サロン	緑ヶ丘地域福祉セン ター	手話とダンスの練習	第1・第3木曜日 24回開催	
60	ひだまりあみもの	ライフタウン国領 集会室	あみもの	第1・第3金曜日 24回開催	
61	CoCo オアシス	調布市こころの健 康支援センター	ゲーム、麻雀、おしゃべ り、くつろぎ	第2土曜日、隔月第 1土曜日	

				17回開催	
62	みんなよってっ亭	くすのきアパート 4号棟集会室	歌、懇談	第2・第4火曜日 22回開催	
63	ハッピーマニア	菊野台地域福祉セ ンター	子育て、軽スポーツ	第3日曜日 12回開催	
64	ひまわりテニス日曜 日クラブ	神代中学校テニス コート、深大寺テニ スコート、多摩川テ ニスコート	テニス	第1火曜日、第1木 曜日、第2日曜日 24回開催	
65	まちかどサロン	緑ヶ丘地域福祉セ ンター	食事、歌、体操、朗読、 紙芝居	第3水曜日 12回開催	
66	飛田給ひまわりの会	西部公民館	歌、体操、折り紙、工作、 勉強会、交流会	月1回（曜日不定期） 11回開催	
67	メリーゴーランド	調布市文化会館 たづくり	交流歓談	第1木曜日、第3月 曜日 24回開催	
68	三火会	野ヶ谷ふれあいの 家	茶話会	第3火曜日 12回開催	
69	みんなの体操サロン	西部地域福祉セン ター	体操	第4木曜日 12回開催	
70	子育てママランチう さくんち	個人宅	ママの食事、相談	第2火曜日、第3水 曜日 22回開催	
71	うたごえサロン金子 の里	国領町三丁目第2 アパート集会所	歌	第4木曜日 12回開催	
72	2・4火曜会	深大寺こもれび	体操	第2・第4火曜日 23回開催	
73	けやきぶんこ	西部地域福祉セン ター	絵本、子育て	第2金曜日 11回開催	
74	上石原ひだまり	上石原ふれあいの 家	10筋体操、歌、茶話会	第2・第4火曜日 23回開催	
75	めだかの学校	八雲台ふれあいの 家	体操、茶話会	第1・第3火曜日 24回開催	
76	サロン・ド・わきあい あい	圓福寺	おしゃべり、工作、10筋 体操	第1・第3火曜日 24回開催	
77	サロンひかるげんじ	光源寺 香ホール	体操、講演会、講座、お しゃべり	第4木曜日 11回開催	

78	みんな DE ネットサロン	ノートルダム修道院「友愛の家」	パソコン、スマホ等に関する情報交換、相談、お茶、おしゃべり	第3水曜日 12回開催	
79	かわせみ会	都宮入間町2丁目アパート集会室	10筋体操、お茶、おしゃべり	毎週金曜日 24回以上開催	
80	スマホを楽しむ会	緑ヶ丘地域福祉センター	スマホ・ネット等の活用、お茶、おしゃべり	第2・第3土曜日 24回開催	
81	スマイル	八雲台ふれあいの家	手芸、茶話会	第1・2水曜日 24回開催	
82	野川サロン	深大寺にぎわいの里 調布のやさい畑	茶話会	第3金曜日 12回開催	
83	歌の会よしだま	個人宅	歌、茶話会	第2・3月曜日 22回開催	
84	なかよし	緑ヶ丘地域福祉センター	麻雀	第2・4水曜日 23回開催	
85	調布サロコン	染地ふれあいの家	音楽を通じて交流	第3日曜日 12回開催	
86	いきいき脳トレ会	調布ヶ丘地域センター	麻雀、ランチ、おしゃべり	第2月曜日、第3土曜日 24回開催	
87	談話室ろじうら	談話室ろじうら	茶話会、麻雀、絵手紙	第2金曜日、第4木曜日 24回開催	
88	e友シルバース	調布市市民プラザ あくろす	ゲーム	第1月曜日 12回開催	
89	福笑 FuKuEmi	くすのきアパート1号棟集会室	茶話会	第1・3火曜日 24回開催	新規
90	菊野台折り紙クラブ	菊野台地域福祉センター	折り紙	第2木曜日 10回開催	新規
91	すみれの会	上布田自治会館	茶話会	第2・4火曜日 20回開催	新規
92	あおい	調布ヶ丘2丁目アパート集会室	10筋体操	毎週水曜日、第3日曜日 18回開催	新規
93	ボードゲームとおしゃべりクラブ	ぶくぶくポレポレの家	ボードゲームとおしゃべり	月2回火曜日 7回開催	新規
94	ふじみ会	富士見町3丁目第2アパート集会室	茶話会、折り紙、歌	第1土曜日 2回開催	新規
95	にじいろお話会	布田駅南ふれあいの家	LGBTQに関するお話会	月1回土曜日または日曜日 2回開催	新規

分析・課題

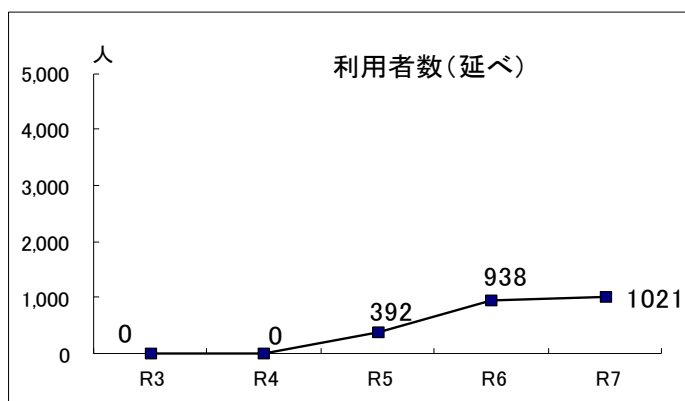
- ここ数年、スタッフ・参加者の高齢化により、継続的な活動が困難となっているサロンが少なくない。
- 一方で、地域支え合い推進員、地域福祉コーディネーター及びボランティアコーディネーター等の連携により、新規登録サロンも増えている。
- 各サロンや応援スタッフの協力により、20周年企画に取り組んだが、まだサロンの存在を知らない方も多と思われるため、今後もチラシやパンフレット、冊子、ホームページ等を活用し、広報を行っていく必要がある。
- 令和6年度に実施した「高齢者の社会参加等の場の実態に関するアンケート」の結果をさらに分析し、地域での交流の場がさらに広がるよう、支援体制を構築していく必要がある。



番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(2)	高齢者会食サービス				○

結果の概要

- 8 拠点中 4 拠点が月 2 回、4 拠点が月 1 回、ボランティアによる利用者への食事提供を行った。
- 月 1 回の活動となる拠点の利用者については、活動の代替として月 1 回職員からの電話による安否確認を実施した。
- 入間ではボランティア減少により一時活動を休止していたが、新規ボランティアの加入で 9 月より活動を再開した。
- 活動中の言動や安否確認の電話において様子が心配な方については、緊急連絡先となる家族や地域包括支援センター等の関係機関と連携し、対応した。
- 年度末には活動の振り返りや意見交換、ボランティア同士の交流を深めることを目的としてボランティア情報交換会を実施した。
- 2 年に 1 度の利用者更新手続きを経て、他サービスへの移行や施設入所などにより、8 人がサービス終了となった。



実績等

地域福祉センター	利用者数 (人)	実施曜日	会食実施回数	ボランティア数 (人)	安否確認 電話回数
菊野台	7	火	年間 24 回	4	0 回
下石原	4	水	年間 23 回	8	0 回
染地	12	水	年間 24 回	17	0 回
西部	8	木	年間 23 回	14	7 回
調布ヶ丘	8	木	年間 12 回	4	96 回
緑ヶ丘	13	木	年間 12 回	6	146 回
入間	8	金	年間 7 回	5	179 回
金子	6	金	年間 12 回	5	58 回
	計 66 人		計 137 回	計 63 人	計 486 回

※利用者数及びボランティア数は令和 8 年 3 月 31 日現在の人数

分析・課題

- 各拠点の状況やボランティアの方々の意向に沿った方法で事業を進めることができた。令和 8 年度以降もボランティアとコミュニケーションを図り、安全に、安定した事業継続に努めたい。
- ボランティアの高齢化、人手不足は常に大きな課題であり、新たなボランティアの獲得は急務。
- 認知症状の進行等により、ボランティアや職員のサポートなしでは活動に参加できない利用者もいる。家族や関係者と連絡・調整を図りスムーズなサービス移行等につなげたい。
- 材料費と調味料代については令和 6 年度から引き続き 2 か月に 1 回出納日を設け精算する形で進めた。ポイントカードの利用やクレジットカードでも購入等、会計上のミスは数件起こったが、令和 7 年度と比べると改善されてきた。正しく会計処理が行なえるよう、引き続きサポートしていく。
- ボランティア不足、食材費高騰、介護保険サービス・地域のインフォーマル資源の充実等、本事業を取り巻く状況は時代とともに大きく変化しており、今後の事業の継続性、あり方について、検討を重ねる必要がある。

番号	事業名	財源			
		自主 会費	補助	委託	事業 ○
(3)	小地域交流事業				○

結果の概要

- 第 6 次調布市地域福祉活動計画の各圏域の内容を踏まえつつ、過去の経緯をくみ取りながら実行委員会で実施内容を検討した。全拠点でおまつり等を開催、別企画となるパート 2 や新たなイベントを実施した拠点もあり、多くの方が来場し、盛況のうちに終了した。

実績等

地域福祉活動 計画圏域	地域名（会場）	事業名	内容（別企画含む）
緑ヶ丘・滝坂小	緑ヶ丘地域福祉センター	緑ヶ丘・仙川地域ふれあいのつどい（パート 1）	11 月にパート 1、2 月にパート 2 を開催。 パート 1 では和太鼓や朗読の舞台発表や

		緑ヶ丘・仙川地域ふれ愛のつどい（パート2）	模擬店、手作り品の販売を行なった。他にもメッセージカードに夢や目標を書いて「きぼうの川」に貼り完成させるという企画を実施。パート2では今昔物語～地域への思い～をテーマに講演会を開催。
若葉・調和小	若葉小学校	三世代交流昔遊びの会	7月に「若葉縁日」、1月に「はつらつ地域まつり 三世代交流昔遊びの会」を開催。若葉小学校体育館を会場としてめんこや福笑い、羽根つきなど昔遊びを行った。
	金子地域福祉センター	金子ふれあいまつり 金子バリアフリー映画体験会	7月に「バリアフリー映画体験会」、11月に「金子ふれあいまつり」を開催。金子ふれあいまつりでは、舞台発表やボッチャコーナーなどの他にカレーやチャイなどの飲食物の販売も行った。
上ノ原・柏野小	菊野台地域福祉センター	菊野台地区地域のつどい	11月に開催。約250人が来場。舞台発表や喫茶、展示、スマホ相談コーナーなどを実施した。
	調布ヶ丘地域福祉センター	調布ヶ丘わくわく広場	11月に調布ヶ丘わくわく広場を開催。500人を超える方が来場、舞台発表や手作り豚汁、非常食体験、フードロス削減の一環として寄付でいただいた飲料の配布などを行なった。
第二・八雲台・国領小	国領小学校	国領わいわいまつり	11月に開催。約900人が来場し、ステージ発表や飲食ブースの他、前年度も好評だったeスポーツ体験会を実施。多くの子どもボランティアにも参加していただき、盛況に終わった。
北ノ台・深大寺小	希望の家深大寺	ふれあいフェスタ北ノ台	2月に開催。令和6年に引き続き好評であった希望の家深大寺を会場として開催した。
	深大寺小学校	深大寺ふれあいのつどい	6月に深大寺小学校を会場として開催。約500人が来場し、作業所の販売、ゲームコーナー、アルファ米のデモンストレーションなどを行った。
第一・富士見台・多摩川小	下石原地域福祉センター	下石原地区わいわいまつり	令和7年度より、事業名を下石原地区わいわいまつりへ変更。11月に開催。パンケーキや新鮮野菜の販売、モルックやじゃんけん大会などのおたのしみ企画、アコーディオン演奏やマジックショーなどのステージ発表を行った。

染地・杉森・布田小	こころの健康支援センター	布田わくわく広場まつり	10月に開催。模擬店・舞台・作品展の三本柱で行ない、約890人が来場。令和7年度より実施した館内スタンプラリーには約300名が参加。こころセンター利用者は運営ボランティアとして参加。その他、学生や地域住民もボランティアで参加するなど盛況のうちに終了。
	染地地域福祉センター	そめちマルシェ(ボランティアまつり染地)	5月にそめちマルシェを開催。約900人が来場、バザーや野菜販売、作品展示などを行なった。1月から3月にかけては来年度の開催に向けて実行委員会を開催。
第三・石原・飛田給小	富士見地域福祉センター	富士見ふれあいのつどい	11月に開催。ステージ発表・模擬店を行い、約300人が来場した。模擬店では、フランクフルトや豚まんなど全6種類を販売した。
	西部地域福祉センター	西部ふれあいのつどい	10月に開催。幅広い年齢層の参加を促すために今年度からこどもコーナーを新設、当日は約230人が来場した。

分析・課題

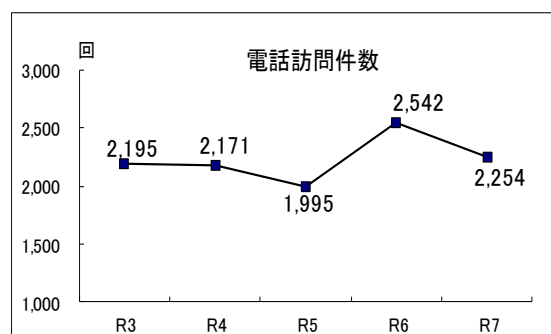
- 全拠点でメイン企画を実施。それを土台としてパート2や新しい企画を実施する拠点もあり、各地域でそれぞれの特性を活かし工夫を凝らして開催することができた。
- これまでのつながりを維持しながらも、多くの地域で実行委員の高齢化が課題となっているため、若い世代や新たな担い手の発掘が必要である。
- 従来の広報媒体であるふくしの窓や市報等に加え、SNSも活用し、お祭りや地域の活動について広く周知していく。

3 住民主体の訪問活動

番号	事業名	財源			
		自主	補助 市	委託	事業
(1)	ほのぼの電話訪問				

結果の概要

- 電話訪問員9人が平日の午前中、利用者に電話を掛け安否確認を行うとともに、話をすることで孤独感の緩和を図った。
- 死亡や施設入所、他サービスとの重複等の理由で7名が利用中止となった。
- 令和7年度は2年に1度の利用者更新手続きがあり、令和7年度末をもって40人が更新、他サービスへの移行や施設入所などに伴い7人が利用終了となった。
- 高齢者見守り事業（ふれあい給食、電話訪問、友愛訪問）に協力いただいているボランティアを対象とした



合同研修会を実施。令和7年度は高齢者との接し方をテーマとして、電話訪問員は全員参加していただいた。

○訪問員の情報交換や事例検討・共有の場として実施している電話訪問員会議は当初予定通り全5回開催した。

実績等

○利用実績

月	利用者数(人)	訪問回数(回)	月	利用者数(人)	訪問回数(回)
4月	53	205	10月	51	220
5月	51	190	11月	50	178
6月	53	197	12月	50	182
7月	51	219	1月	47	158
8月	51	202	2月	46	146
9月	51	183	3月	45	174
		合計			599
					2,254

※電話訪問員からの午前中の電話に回答がなく、午後から安否確認をした件数 159件

○電話訪問員会議・研修

月 日	項目	内容
4月15日	第1回電話訪問員会議	事務連絡、近況報告・事例検討
7月16日	第2回電話訪問員会議	事務連絡、近況報告・事例検討
9月18日	第3回電話訪問員会議	事務連絡、近況報告・事例検討
11月21日	第4回電話訪問員会議	事務連絡、近況報告・事例検討
3月16日	第5回電話訪問員会議	事務連絡、近況報告・事例検討

分析・課題

○電話による非対面の訪問であることから安定的な安否確認が可能である。地域で必要な方に情報が行き届くよう、民生委員をはじめとする関係者や関係機関との連携を行ない、サービスの周知を継続していく。

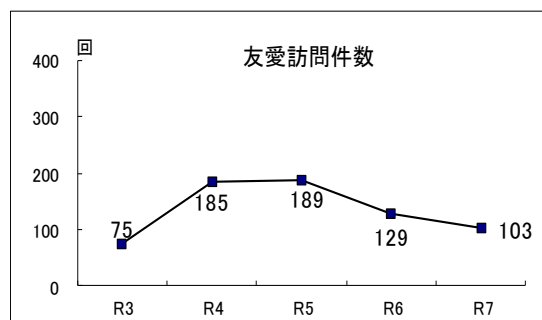
○訪問員の高齢化も進んでいるため、安定した事業継続のためにも新たな担い手を探していくことや欠員の補充にも努める。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(2)	友愛訪問事業		市		

結果の概要

○友愛訪問員が、週1回1時間程度高齢者宅を訪問し話し相手となることで、孤独感の緩和と社会との繋がりづくりを図った。

○訪問員から報告のあった利用者の心身の変化を家族や社協内他部署、地域包括支援センター、ケアマネジャー等に伝え、情報共有や連携を図った。



- 訪問員を通じて、熱中症予防や防災・防犯等の注意喚起と情報提供を適宜行った。
- チラシの掲示等、訪問員募集を実施したことで新たに協力員1人が登録となった。
- 係内の高齢者見守り事業担当者間で情報共有の場を設け、現状と課題を共有、連携の強化を図った。
- 他部署の会議に出席し、事業について周知することで新たな訪問員、利用者の確保に努めた。
- 高齢者見守り事業（ふれあい給食、電話訪問、友愛訪問）にご協力いただいているボランティアを対象とした合同研修会を、「高齢者との接し方」というテーマで実施した。情報交換の場も設け、事業の枠を超えて交流を図ることができた。

実績等

月	利用者数 (人)	訪問 (回)	友 愛 訪 問 員 連 絡 会		
			回数	日付	内 容
4	7（休止中1）	10	1	9日	委嘱状交付、新年度体制、活動報告、情報交換等
5	7（休止中1）	12	1	14日	活動報告、情報交換等
6	6（休止中1）	7	0		なし
7	6（休止中1）	7	1	9日	調布警察署による講演、活動報告、情報交換等
8	6（休止中1）	8	0		なし
9	6（休止中1）	8	1	10日	活動報告、情報交換等
10	6（休止中1）	9	0		なし
11	6（休止中1）	8	1	12日	活動報告、情報交換等
12	6（休止中1）	6	0		なし
1	6（休止中1）	10	1	14日	活動報告、情報交換等
2	6（休止中1）	9	0		なし
3	6（休止中1）	9	1	11日	調布警察署による講演、1年の振り返り、活動報告、情報交換等
計	74（登録延数 86）	103	7		

分析・課題

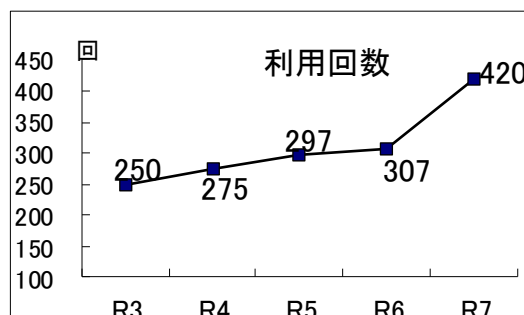
- 利用者の減少や休止者がいたことにより、訪問回数が減少した。
- 訪問員が高齢化傾向にあり、安全に活動できるよう活動環境（活動地域、担当数および訪問間隔）や健康面の配慮が必要と考えられる。
- 友愛訪問員連絡会は、情報提供だけでなく訪問員が訪問時に抱えている課題を共有し対応について意見を出し合う場となっている。令和7年度は2度にわたって調布警察署警察官から特殊詐欺に関する講演をいただき、近年の傾向や対策について理解を深めることができた。
- これまで利用者の誕生日訪問時は担当職員が誕生日カードを製作していたが、令和7年度は調布市子ども・若者総合支援事業「ここあ」の利用者に製作を依頼。若者の才能と感性が溢れる誕生日カードは、利用者からも好評であった。
- 待機利用者5人のマッチングに向けて、新規訪問員の早期獲得を図りたい。広報活動を工夫し、地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員等とも連携して新たな担い手を発掘したい。

4 企業との協働活動

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	高齢者訪問理美容サービス		市		

結果の概要

- 従事者のサービスの質を高めるため、理容組合・美容組合の会員を対象に、「認知症サポーター養成講座」「高齢者体験」をテーマに研修会を実施した。美容組合のみ、多摩府中保健所の衛生講習も同日に実施した（保健所の講習は美容組合が調整）。
- サービス対象外である要介護2以下の方からの「実費でも訪問理美容を依頼したい」という問い合わせには、以前に引き続き協力理容店と美容組合の「福祉美容サービス」を紹介する等の対応をした。
- ふくしの窓、市報に事業の利用案内を掲載した。



実績等

- 利用回数 420回（理容192回／美容228回）
- 申請者数 229人（令和6年度173人）
- 理美容券を全て使用した人は53人。申請者数の約23%にあたり、令和6年度と同割合であった。

分析・課題

- 令和6年度と比較し、申請者数、利用回数ともに大幅な増加となった。年間を通じて問合せ、申請があり、今後もこの傾向が続くものと思われる。
- 利用者アンケートを実施したところ「認知症が進み、大声を出す。歩行ができず外出が難しいため、自宅で散髪してもらえるのがとても有難い」「馴染の理容師さんから自宅で安心して施術を受けられる」等、サービス内容に満足しているという回答が多く、訪問による調髪のニーズの高さがうかがえた。
- 利用要件を満たしていながら、長らく本サービスの存在を知らなかったという声もあり、必要な方に情報が行き届くよう広報強化に努めたい。
- 訪問調髪ニーズが高い一方、協力理容店の減少が課題である。

5 人材育成

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	手話講習会事業		市		○

結果の概要

- 入門・基礎・養成（基本・応用）の全てのコースを開催した。
 授業回数：全クラス各35回
 授業時間：1.5時間

- これまで養成コース（基本・応用）は昼夜隔年開催だったが、養成基本クラスのみ昼夜同時開催した。
- 令和8年度手話講習会養成クラス選考試験は39人が申込み、全員が受験し、昼クラス15人・夜クラス12人が合格となった。
- これまで講師会、世話人会を年間で各3回開催していたが、講師、世話人からの希望により、3回のみ合同で開催した。
- 手話講習会・手話通訳者試験等検討会を6回開催した。6回目は東京手話通訳者統一試験委員会を招き、統一試験への移行に向け実施方法や内容について説明を受けた。
- 手話講習会・手話通訳者試験等検討会にて養成クラスの昼夜同時開催について議論し、令和8年度から開催することとなった。

実績等

○講習課程

全クラス35回の講習会を実施した。

○受講者数

	コース名	定員	受講者数(人)	修了者数(人)
火曜日 昼間	入門	30人	30人	22人
	基礎	25人	25人(聴講1人)	24人
	養成基本	20人	12人	11人
	養成応用	15人	10人	9人
金曜日 夜間	入門	30人	28人	27人
	基礎	25人	16人	14人
	養成基本	20人	14人	11人
合計		165人	135人	118人

○講師会

6月、9月、3月に開催

○世話人会

5月、9月、3月に開催

○講師研修

回数	開催日	外部講師	内容
第1回	令和7年 6月21日	林雅臣 氏 (元明晴学園教員、現坂戸ろう学園教員)	手話奉仕員養成テキスト（全面改訂版）を使った指導方法について、川崎市手話講習会の講師研修について
第2回	令和7年 7月9日	南田政浩 氏・梅澤晃代 氏 (府中市手話講習会通訳養成クラス講師)	ろう者と聴者の協働による通訳養成の試みについて、府中市・調布市での実践等の情報交換
第3回	令和7年 6月21日	林雅臣 氏 (同上)	手話奉仕員養成テキスト（全面改訂版）を使った指導方法について、川崎市手話講習会の講師研修について

○手話講習会・手話通訳者登録試験等検討会

任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日

	氏名	所属
会長	井村 茂樹	調布市聴覚障害者協会
副会長	掛場 久統	調布市聴覚障害者協会
委員	秋吉 昭良	調布市聴覚障害者協会
委員	井村 あゆみ	調布市聴覚障害者協会
委員	今野 明子	調布市登録手話通訳者の会
委員	西田 晃子	調布市登録手話通訳者の会
委員	田村 敦史	調布市社会福祉協議会
委員	本田 裕人	調布市社会福祉協議会

○検討会開催状況

回数	開催日	内容	参加人数
第1回	令和7年 5月28日	(1) 検討会メンバー及び事務局自己紹介 (2) 手話講習会・手話通訳者登録選考試験検討会の概要 (3) 令和6年度の振り返り (4) 令和7年度検討会の検討内容について (5) 令和7年度検討会の検討項目・スケジュールについて	6人
第2回	令和7年 7月16日	(1) 前回の振り返り (2) 令和7年度のスケジュールについて (3) 養成応用クラス増設について (4) 手話通訳者登録選考試験不合格者の受け皿について (5) 受講料アップについて	6人
第3回	令和7年 8月19日	(1) 前回の振り返り (2) 令和8年度登録試験について（負担軽減の方法） (3) 統一試験への移行の是非について (4) カリキュラムについて	6人
第4回	令和7年 10月20日	(1) 前回の協議内容についての回答 (2) 統一試験について (3) 令和8年度登録試験について (4) 講師・世話人の協議の場について	6人
第5回	令和7年 1月26日	(1) 前回の振り返り (2) 講師・世話人配置表の作成 (3) 統一試験の導入時期について	6人
第6回	令和8年 2月19日	東京手話通訳者統一試験委員会より手話通訳者統一試験についての説明	6人

分析・課題

- 手話普及コースの入門・基礎クラスは幅広い層が参加した。クラス別講演会やろうゲストを招いての授業を通して、障がい理解の促進、受講生の学習意欲の向上や受講生同士の交流を図ることができた。
- より一層の手話の普及と手話通訳者の養成を図るため、講師・世話人の確保やクラス編成等の課題について検討を進めていく必要がある。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(2)	研修の場の提供				

結果の概要

○社会福祉の実践・実習教育として、大学等の各種学校に協力し、実習生の受け入れを行った。

実績等

○令和7年度実習生受入校・企業（年度当初の受入予定校含む）

No.	学校	人数	No.	学校	人数
1	桜美林大学	1人	8	法政大学	1人
2	日本社会事業大学	1人	9	ルーテル学院大学	2人
3	武蔵野大学	19人	10	調布特別支援学校	18人
4	日本大学	1人	11	東京慈恵会医科大学	8人
5	立教大学	1人	12	慈恵第三看護専門学校	14人
6	大妻女子大学	1人	13	神代中学校	3人
7	東京都立大学	1人	14	東京都社会福祉協議会	1人

※No.1～9は社会福祉士実習、No.10は就業体験、No.11は福祉体験実習、No.12は臨地実習（老年看護学）、No.13は職場体験、No.14は実地研修、No.3の18人については見学実習

※調布市役所が受け入れた社会福祉士実習生については、大学側からの辞退により受け入れなし。介護等体験については、実習依頼なし。

分析・課題

○社会福祉士資格取得のためのソーシャルワーク実習については、長期分散型の実習とし、8月21日から12月20日までの期間（180時間以上）で行った。また、地域をフィールドとしたソーシャルワークを展開している法人の特性を踏まえ、当事者・地域へのかかわり方など専門性を実践から学ぶ機会を提供した。

○最終日の振り返りでは、学生がこれまで学んできたことを発表する場を設け、他学生と質疑応答等行い学びを深めた。学生の学習意欲の確認や各大学の指導教員とも連携しながら今後も取り組む必要がある。

6 団体支援等

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	地域福祉活動支援事業			市	

結果の概要

○地域で活動を行っている団体に対して、活動の充実、発展を支援するための助成事業を実施。

○申請のあった4団体すべてが書類選考を通過。公開プレゼンテーション等を経て、令和7年度は2団体に対し助成が実施された。

○年度末の活動報告会では、各団体がお互いの報告を聞き、その後の交流会ではそれぞれの団体が抱える課題等について活発な情報交換が行われた。また過去助成団体で現在も活動を継続・発展させてい

る団体をゲストスピーカーとして呼びし、これまでの活動実績、団体運営の秘訣等をお話しいただいた。

実績等

○選考

日 程	令和7年4月27日
参加人数	18人
場 所	調布市総合福祉センター2階 201～203 会議室
内 容	応募団体の公開プレゼンテーションにより、検討評価委員が選考。 2団体に対する助成が決定された。

○助成団体（2団体）

団体	活動内容
すくすくぱあく	行政の手の届かない部分の子育て支援の拡充を目的に令和5年度に活動を始めた団体。地域で子育てをする方に、横のつながりを実現し、子育てできる環境をつくりだす。SNSで定期的に情報を提供し、セミナーや勉強会、フェスも随時開催する。
介護ラボしゅう	他者理解、障がいへの理解促進、子どもの福祉視点の向上、多世代交流を目的とした事業を行う団体。自分じゃない“誰か”になりきり、誰かが街で感じている気持ちを体験することで、誰かを思いやる一歩に繋がる活動を新たに始める。

○活動報告会

日 程	令和8年3月14日
参加人数	19人
場 所	調布市総合福祉センター 201～203 会議室
内 容	助成団体2団体がこの1年の活動を報告。 卒業団体がゲストスピーカーとして助成終了後の活動を報告。 後半部分は交流会とし、団体同士の横の関係づくりに役立てた。 最後に検討評価委員により講評をしていただいた。

分析・課題

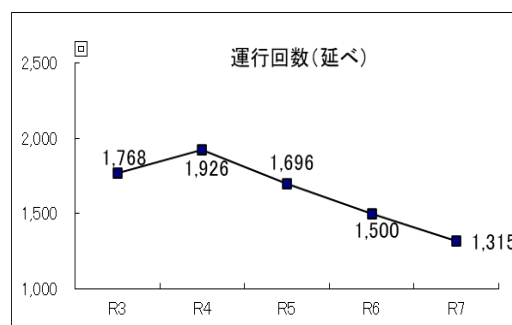
- 本助成事業は助成金支援だけではなく、新しい活動を行う団体活動全体の支援を目指している。地域福祉コーディネーターや地域支え合い推進員、また市民活動支援センターと連携して、包括的な支援をしていきたい。
- 助成事業の種類が増え、本事業への申請が減少している。助成が必要な団体に情報が伝わるよう広報の方法など考える必要がある。

番号	事業名	財源			
		自主 歳	補助	委託	事業

(2) 福祉有償運送に係る補助金交付事業

結果の概要

- 既存の交通機関を利用して外出することが困難な市民の在宅援護の一助として実施する福祉有償運送を行う NPO 法人への運営費補助を行った。
- 補助金交付団体と利用状況や運営状況について必要に応じて情報共有を行った。
- 令和 6 年度は 50 人の方が利用、令和 7 年度は 44 人とやや減少しているが、1 人あたりの利用回数（平均 30 回）は変わらなかった。



分析・課題

- 運転者の高齢化、それに伴う事故の増加、利用者層の変化等、時代とともに状況も大きく変わってきており、本事業の在り方・今後の方向性について、補助金交付団体や行政を含め検討していく必要がある。
- 補助金交付団体がこれまで借りていた電源開発の駐車場は 9 月末で立ち退きが決定している。新たな駐車場候補地を探しているが、経費負担や事務所との距離等、クリアすべき課題は多い。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業

(3) 調布市老人クラブ活動支援事業

結果の概要

- 調布シニア広報誌「不老又新」を市役所高齢者支援室窓口、各地域福祉センター、老人憩いの家に配し、広く市民に周知した。
- 社協と FC 東京の赤い羽根共同募金の活動に参加、シニアクラブの襷を着用し、名前を発声して宣伝することができた。
- 新たな教室事業として e スポーツ教室を実施した。
- 会員の自発的なサークル活動として、健康吹き矢に加え令和 7 年度よりソシアルダンスが実施された。
- 会員増強の一環として会員外の市民が参加できる「シニアクラブセミナー」を実施した。
- 会員作品展の出品数の制限をなくしたところ、令和 8 年度の 202 点から 313 点と大幅に増えた。
- 8 月の理事会は、猛暑で活動自体が少なく急ぎの協議事項もなかったことから中止とした。猛暑に対する高齢者への危険度を考えた上での措置である。
- 令和 7 年 4 月現在 単位クラブ数 29 クラブ 会員数 1,349 人

実績等

1 会議関係	総会	4 月 22 日	55 人
	理事会	11 回	延 133 人
	会長会議	2 回	50 人
	会計監査	4 月 8 日	延 4 人

		総務部会	3 回	延 9 人	
		健康部会	2 回	延 4 人	
		文化部会	2 回	延 4 人	
2 市老連研修会		新任会長・役員研修会 管外指導者研修会	5 月 21 日	44 人	
		会計相談会	2 月 9 日	1 クラブ	
3 友愛実践活動		友愛リーダー会議	6 回	延 70 人	
		シニアクラブセミナー	5 回	延 338 人	
健康推進活動	グラウンド・ゴルフ大会	第 27 回大会	10 月 17 日	96 人	
		専門委員会	3 回	延 20 人	
	グラウンド・ゴルフ練習	毎週水曜日 調布基地跡地運動場 自由広場			自由参加
	輪投げ大会	第 59 回大会	3 月 10 日	161 人	
		専門委員会	3 回	延 32 人	
	体力測定会	体力測定会	3 月 17 日	38 人	
		専門委員会	実施せず		
	ポッチャ大会	第 2 回大会	10 月 27 日	101 人	
		専門委員会	3 回	延 30 人	
	健康吹き矢大会	第 2 回大会	12 月 12 日	52 人	
		専門委員会	3 回	延 16 人	
	e スポーツ教室	教室	5 回	延 63 人	
5 教養文化活動	囲碁大会	囲碁大会	7 月 31 日	26 人	
		専門委員会	3 回	延 13 人	
	俳句大会	俳句大会	郵送による大会を実施		34 人
		専門委員会	4 回	延 25 人	
	会員作品展	会員作品展	9 月 11 日～15 日	483 人	
		専門委員会、反省会	3 回	延 49 人	
	芸能大会	第 55 回大会	11 月 20 日	440 人	
		リーダー会議	2 回	10 人	
	カラオケふれあいの集い	第 30 回カラオケふれあいの集い	2 月 13 日	283 人	
		準備委員会	2 回	延 20 人	
	不老又新		不老又新夏号、冬号の発行		年 2 回
	歴史に親しむ会	講義・散策	2 回	延 26 人	
専門委員会		3 回	延 7 人		

	健康麻雀教室	麻雀教室	6回	延141人
	日帰り旅行		中止	
	一泊旅行		中止	
6 女性部	女性部全体会		4月28日	43人
	女性部常任委員会		5回	延59人
	女性部ブロック会議		4回	延129人
	東老連シニアフェスタ		11月11日	29人
	福祉まつり		12月7日	14人
	女性部おたのしみフェスタ		3月26日	148人
7 その他	木島平村交流		中止	
	玩具の伝承	ちょうふ彩咲祭	10月4日	20人
		福祉まつり	12月7日	16人
		多摩小昔遊び	1月30日	8人
		富士見台小昔遊び	1月14日	6人
		実行委員会	計4回	延48人
	新春のつどい	式典・懇親会	1月23日	81人
8 東京都老人クラブ連合会関係	東老連スポーツ講習会		5月20日	5人
	女性部全体会		5月22日	2人
	東老連輪投げ大会		6月20日	11人
	関東甲信越静岡ブロック老人クラブリーダー研修会		6月25・26日	1人
	東老連レクダンス講習会		6月19日	7人
	東老連手作り品講習会		7月29日	2人
	東老連女性リーダー研修会		9月10日	2人
	東老連ペタンク大会		不参加	
	東老連グラウンド・ゴルフ大会		11月7日	6人
	東京都老人クラブ大会		12月10日	5人
	東老連賀詞交歓会		1月8日	3人
	全国老人クラブ大会		11月5・6日	1人
9 東老連多摩地区第4ブロック	多摩地区第4ブロック女性部推進リーダー会議		6月4日	2人
	多摩地区第4ブロック会議		7月17日	3人
	多摩地区第4ブロック軽スポーツ交流会代表者会議		8月22日	2人
	多摩地区第4ブロック健康教室事業		3月2日	37人
	多摩地区第4ブロック軽スポーツ交流会輪投げ大会		10月29日	15人

ロ ッ ク 関 係	多摩地区第4ブロックシニアフェスタ練習	1回	24人
-----------------------	---------------------	----	-----

分析・課題

- 会員減少の原因の一つである会計処理問題への対策として、「会計相談会」を実施してきたが、クラブ内での会計に関しては定着しつつあるようで、相談件数が少ない。令和8年度の状況によっては個別相談の形に戻すことも検討している。
- 会員の減少・高齢化、役員になり得る人材不足などから、令和6年度と比べて2クラブが活動を停止した。また会員数が30人を割っているクラブもあり、新年度に向けて会員増強を目指しているが非常に厳しい。また令和7年度中も活動を維持できないクラブがあり、クラブ数、会員数が一段と減少する可能性がある。若い会員を増やすためにも、引き続きeスポーツや麻雀教室など、若年高齢者の人気となりえる事業を拡充したい。
- 広報誌「不老又新」やホームページ等、従来の広報媒体に加え、若い世代の会員獲得のため今後はFacebookのストーリーズやXなどの活用も検討したい。
- リーダー不在で休会となっているクラブ、高齢化に伴い活動が少なくなっているクラブは、同じ地区協議会内で協力し活動の安定化を進めている。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(4)	調布市障害者（児）団体連合会への支援				

結果の概要

- 評議員会や交流会、合同会議について内容を検討したうえで、全ての行事を開催した。

実績等

行事	実施日	実施回数	参加者	内容
会計監査	4月30日	年1回	監査2人 事務局2人	令和6年度会計監査
総会	5月28日	年1回	評議員6人 事務局4人	令和6年度事業報告及び決算 令和7年度事業計画及び予算
評議員会	○第1回 5月28日 ○第2回 11月12日	年2回	○第1回 評議員6人 事務局4人 ○第2回 評議員9人 事務局4人	○第1回 年間行事について ○第2回 交流会の振り返りと合同会議について
交流会	10月30日	年1回	加盟団体10人 その他1人 来賓3人 事務局4人	○×ゲーム、ビンゴゲーム

合同会議	2月18日	年1回	加盟団体9人 障害福祉課1人 調布警察署1人 調布消防署2人 市議会議員4人 事務局4人	「障害当事者の緊急時の困りごと」「対応する警察、消防や救急の現場の困りごと」をテーマとした合同会議
------	-------	-----	---	---

分析・課題

- 交流会の開催は、同連合会加盟4団体相互の障がい理解を深める機会となっている。
- 例年、関係機関と障がい当事者の相互理解を深めるために合同会議を開催。令和7年度は「障害当事者の緊急時の困りごと」「対応する警察、消防や救急の現場の困りごと」をテーマとし、障がい当事者、関係機関が意見交換をする形式で開催した。グループを2つに分け、警察・消防それぞれに話を伺うことができるように、会の途中で席を交換した。参加者全員から意見が出され、活発な議論が展開された。
- 加盟団体、執行役員が減少しており、各行事の参加者が少ないことが課題である。参加対象を広げて障がい当事者の横のつながりを作り、互いの障がいを理解し学びあえる機会や障がい者団体の活動を普及啓発していくことを検討する。

番号	事業名	財源			
		自主 基	補助 市	委託	事業
(5)	福祉団体等事業助成				

結果の概要

- 障がい者団体や高齢者団体等の会運営や事業に対し助成を行い、団体の活動を支援した。

実績等

- 団体助成、大会助成

No.	団 体 名	助 成 内 容	助成額
1	調布市原爆被害者の会	会運営費・平和大会	20万円
2	調布市遺族厚生会	会運営費・平和祈念祭	20万円
3	共同募金調布地区協力会	会運営費	20万円

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(6)	機材の貸出				

結果の概要

- ボランティアグループ、福祉施設、公的機関等の事業に対して、テント、パネル、スクリーン等の社協機材の貸出を行った。
- 故障等への対応、貸出のルールの特化、物品ごとの色分け等、工夫を行ったことで、予約の重複等、大きな問題はなく貸出ができた。

実績等

○貸出件数一覧

社協機材	貸出件数	社協機材	貸出件数	社協機材	貸出件数
テント（大）	120 件	延長コード	90 件	書画カメラ	31 件
テント（小）	79 件	移動式赤ちゃんの駅	2 件	パネルフック	1 件
テントウェイト	44 件	ポップコーン機	39 件	ビンゴ抽選機	6 件
折りたたみ式テント	44 件	ブルーシート	7 件	拡声器	12 件
折りたたみ式テント用テントウェイト	42 件	ポッチャボール	5 件	折りたたみ椅子	18 件
Blu-ray プレイヤー	35 件	CD ラジカセ	144 件	スクリーン	292 件
ワイヤレスアンプ	104 件	有線マイク	22 件	輪投げセット	13 件
プロジェクター	246 件	パネル	12 件	譜面台	45 件
冷水用ジャー	3 件	パネル足	12 件	合 計	1,468 件

分析・課題

- 福祉活動の充実を側面から支援するため、貸出ルール of 徹底及び貸出物品を使いやすく整備する。
- デスクネットの貸出予約ページを整備し、予約の重複等問題が起きないように徹底したい。

番号	事業名	財源			
(7)	後援・共催事業	自主	補助	委託	事業

結果の概要

- 市内各種団体が福祉活動を実施するにあたり、依頼に応じて後援を行った。

実績等

○後援事業一覧

No.	事業名	主催団体
1	劇団芸優座 第十二回春の公演	株式会社 劇団芸優座
2	第 20 回 調布フィーリングアーツ ダンス&バレエライブ	調布フィーリングアーツ
3	第 48 回住宅デー	東京土建一般労働組合調布支部
4	2025 年度無料法律相談会	弁護士法人多摩パブリック法律事務所
5	菊野台新生会 納涼まつり	菊野台新生会
6	手作り市	手作り市
7	20 周年アニバーサリーコンサート～笑顔あふれる はねっ鼓	はねっ鼓

8	地域でつながる おやこで楽しむ にぎわい秋まつり	すくすくばあく
9	第36回（令和7年度）福祉講演会	公益財団法人調布ゆうあい福祉公社
10	平和映画祭 2025	調布市平和記念映画会実行委員会
11	それはおしゃれなコンサート 2026	社会福祉法人 調布を耕す会
12	第34回全国ダウン症巡回セミナー「～今と未来をつなぐヒント～ダウン症と生きる豊かな時間を考える」	公益財団法人日本ダウン症協会
13	調布さくらウインドオーケストラ 第8回定期演奏会	調布さくらウインドオーケストラ
14	第11回調布市伝統文化交流会	調布伝統文化伝承の会
15	本質的な支援をしていれば虐待は起こらない～福祉事業所の虐待問題は今～	NPO 法人調布心身障害児・者親の会ぴいす
16	手作り市	手作り市
17	福祉映画上映会「マイ・ファミリー」	調布市福祉作業所等連絡会
18	第11回 調和 SHC フェスタ	NPO 法人調和 SHC 倶楽部
19	地域でつながる！おやこで楽しむ！にぎわい春まつり	すくすくばあく
合 計		19 件

○共催事業一覧

No.	事業名	主催団体
1	高齢者・障がい者のための成年後見相談会	公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート東京支部
2	北ノ台ふれあい朝市	北ノ台まちづくりネットワーク
合 計		2 件

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(8)	健康支援金		市総		

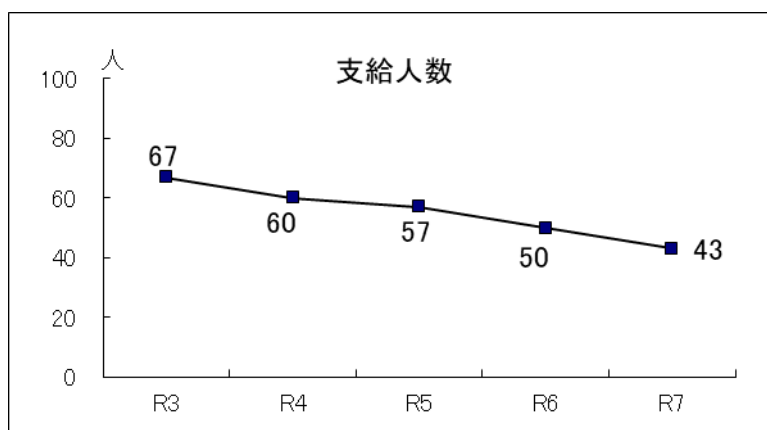
結果の概要

○健康支援金給付事業事務取扱要領に基づき、被爆者健康手帳の交付を受けている方に健康支援金を口座振込みにより給付し、福祉の増進を図った。

実績等

○支給人数43人

○戦後80年を経過したが、支給人数は年々減少をしている。



番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(9)	中央競馬馬主社会福祉財団助成事業				

結果の概要

- 平成24年度より中央競馬馬主社会福祉財団の公益財団法人の移行に伴い、NPO法人に関して直接助成が可能となった。引き続き無認可の施設に関しては社協からの申請・管理となる。
- NPO法人が申請を行う場合、当該施設の所在地域の社協の推薦状が必要となり、令和7年度は申請3件。
- 事業総額費の70%を財団が助成を行い、30%は施設の自己負担分となる。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(10)	招待事業				

結果の概要

- 企業、奉仕団体より、障がい者や高齢者、事業協力者に対する招待をいただき、社協が窓口となって、イベント等に招待している。

実績等

- 調布市花火大会への招待

東京調布ライオンズクラブよりチケットのご寄付をいただいた。

(招待団体)

ドリームボックス下石原、社会福祉法人調布を耕す会 しごと場大好き、クッキングハウス
調布市聴覚障害者協会、NPO 法人調布心身障害児・者親の会、ぴいす、ポピーの家
調布市社会福祉協議会（調布市希望の家、障がい者支援係）、調布ドリーム、クレヨンキッズ
にこにこの会、はあと・ふる・えりあ

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(11)	調布市いきいきクラブ調理運営協議会事務局			市	○

結果の概要

- 通所介護アイビーの利用者に昼食を提供する調理ボランティア団体「調布市いきいきクラブ調理運営協議会（以下「協議会」）」の事務局として支援した。
- 猛暑や人数不足により活動を中止した。実施回数は延べ224回。ブロック長会は毎月1回開催したため、実施回数は12回。
- 食前に、ボランティアによるメニューの説明を行った。調理する際に工夫した点を伝えたり、利用者からボランティアに質問をしたり次回メニューの希望を募る等交流する機会を提供した。
- 公式ラインアカウントを作成し、協議会員と事務局の連絡が以前よりも密になった。
- 新規登録者は12人。会員数75人・長期欠席者4人（令和8年3月31日現在）。ボランティア説明会を実施し、広報に力をいれた結果、令和6年度の2.4倍の新規登録者数は12人となった。
- 会員に1回500円の謝礼金の支払いを行った。延べ980人。

実績等

	項目	回数	内容
会議 関係	総会	1回	令和6年度決算・令和7年度予算等
	役員会	12/12回	活動内容（献立等）の決定・運営方法について
	ブロック長会	12/12回	材料費の支給・情報交換・懸案事項の検討
	監査会	1回	令和6年度決算監査
研修	研修会	2/2回	・衛生管理について（食中毒予防） ・アイビー利用者の病気や障がいについて ・アイビー利用者の食事について ・火災発生時の動きについて ・食に関するボランティア講座
	見学会	1回	・キューピーマヨテラス見学 ・懇談会（外食）
活動	調理活動	214回	通所介護「アイビー」利用者の昼食作り
	大掃除	2/2回	各ブロック活動日に分担した担当箇所を掃除した。
	細菌検査	12回	ボランティアは月1回細菌検体を提出
広報	ボランティア募集	8回	市報2回 ふくしの窓3回 ボランティア説明会1回 ウィンドウ美術館（総合福祉センター1階窓）1回 調布FM出演 1回

分析・課題

- 全員が活動を終了したブロックがあり、欠員補充まで仕出し弁当の提供を実施した。
- 見学会後に外食を伴う懇談会を再開した。希望者の29人の参加となったが、今後もこういった機会があれば嬉しいという声が上がった。今後もボランティア同士の新たな交流が生まれる機会を作り、協議会活動が活発になるよう試みを図る。

- 研修会では、令和7年度初めて調理中に起きる火災発生時の動きについて研修を実施した。長年活動している会員も消火器や防火布の使用方法を再度確認する機会になった。
- 第5週目の協力に関しては、ボランティアの過度な負担とならないよう、当面は見合わせていく。
- 他ブロックのボランティア同士の交流の機会を提供し、欠員時等助け合える環境を引き続き整えていく。
- 異物混入防止のため、ブロック長会議にてヘアキャップの着用の徹底や混入物について周知する等再発防止を図る。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(12)	地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）（重点項目）		市	市	

結果の概要

- 以下の福祉圏域において制度の狭間の課題等、様々な相談を受けるとともに、各種団体・機関と連携しながら、支え合いの仕組みづくりを目指した。

福祉圏域 (小学校区)	主な担当地域
緑ヶ丘 滝坂	仙川町1～3丁目、緑ヶ丘1・2丁目、 菊野台1丁目の一部、 東つつじヶ丘1～2丁目・3丁目の一部、 西つつじヶ丘1～4丁目の一部、若葉町1丁目の一部
若葉 調和	東つつじヶ丘3丁目の一部、 西つつじヶ丘3・4丁目の一部、入間町1～3丁目、 若葉町1丁目の一部・2・3丁目、国領町8丁目の一部、 菊野台1丁目の一部・2・3丁目
上ノ原 柏野	佐須町1丁目の一部・2丁目・3丁目の一部・4・5丁目、 柴崎1・2丁目、菊野台1丁目の一部、 西つつじヶ丘1丁目の一部・2丁目の一部、 調布ヶ丘3丁目の一部、深大寺元町2丁目の一部、 深大寺東町2丁目の一部・3・4丁目、 深大寺南町1～3丁目の一部・5丁目の一部
北ノ台 深大寺	深大寺北町1～7丁目、佐須町1丁目の一部、 深大寺元町2丁目の一部・3～5丁目、 深大寺東町1丁目・2丁目の一部・5～8丁目、 深大寺南町1～3丁目の一部・4丁目・5丁目の一部
第二 八雲台 国領	佐須町3丁目の一部、調布ヶ丘2丁目・3丁目の一部、 八雲台1・2丁目、国領町1～5丁目、8丁目の一部、 布田2・3丁目
染地 杉森 布田	国領町6・7丁目、染地1～3丁目、 布田5・6丁目、多摩川6・7丁目
第一	富士見町2丁目の一部、下石原1～3丁目の一部、

富士見台 多摩川	小島町1～3丁目、多摩川1～5丁目、布田1丁目・4丁目、 調布ヶ丘1丁目・3丁目の一部・4丁目、深大寺元町1丁目
第三 石原 飛田給	飛田給1～3丁目、上石原1～3丁目、下石原1～3丁目の一部、 富士見町1丁目、2丁目の一部・3～4丁目、野水1・2丁目、西町

実績等

<共通>

- 重層的支援体制整備事業の「多機関協働事業」、「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」、「参加支援事業」、「地域づくり事業」を通じて、専門職や関係機関との連携並びに住民主体の地域づくりが促進される環境整備を行った。
- 「多機関協働事業」において、重層的支援体制整備事業における重層的支援会議（2回）、重層的支援会議実務者部会（書面開催1回）及び支援会議（8回）を実施した。また、福祉圏域別専門職等ネットワーク会議及び支援関係機関等との情報交換会を実施した。会議等により、多様な分野の相談支援者同士が顔の見える関係を構築するとともに、複雑化・複合化した支援ニーズを抱える世帯を包括的に支援するための多機関による連携体制の強化を図った。
- 「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」において、相談支援における訪問や地域のイベント・会議等へ参加により、個別支援ニーズや地域生活課題を把握した。訪問を重ね、当事者や地域住民との信頼関係を構築し、当事者に対する丁寧な働きかけや伴走支援を行った。
- 「参加支援事業」において、生活上の困難を抱えている地域住民が孤立することなく生活できるよう、地域住民、関係機関、企業・商店、行政等と連携しながら、把握したニーズに合った社会資源を創出し、当事者と社会とのつながりづくりに向けた支援を行った。
- 「地域づくり事業」において、地域福祉に関する勉強会（ちょうふ地域福祉フォーラム）を2回開催した（詳細はP89参照）。
- 「地域づくり事業」において、ルーテル学院大学並びに近隣4市・社協が主催する「令和7年度地域福祉ファシリテーター養成講座」を3人が受講し、グループワーク等での働きかけやフォロー、担当地域の地域福祉コーディネーター及び地域支え合い推進員とのつながりを行った。過去の修了生からの修了生同士の情報交換会を希望する声と、令和7年度受講生からのアイデアを受けて、受講生とともに修了生交流会を企画し、10人が参加した。地域活動や社会資源の情報交換・共有が行われ、地域福祉ファシリテーターとして、地域に必要なことやできることを話し合う機会となり、修了生同士のネットワークが形成された。
- 活動を広げていく団体の取組を後押しするための「地域づくり事業」補助金を1団体が利用した。補助金利用後の活動についても、継続して地域福祉コーディネーター及び地域支え合い推進員がフォローを行った。
- 地域福祉コーディネーターの取組や地域活動の紹介、地域生活課題等の啓発を発信する機会として、アウトリーチやふくしの窓、SNS（Instagram）等の様々な媒体を活用し、新たな層の担い手とのつながりづくりや多様な支援ニーズを抱える世帯への社会参加を促す取組の創出を図った。また、情報を受け取ることが困難な方や、情報を受け取ることができてもつながらない方に向けて、関係機関と連携して情報の受け取り手の関心に合わせた発信を行った。
- ひきこもり・生きづらさ等に関する取組「調布やまぼうしの会（ひきこもり家族会）」、「ちょうふのこやど（当事者会）」、「調布女子会 のまま（女性の当事者会）」について、継続した運営支援を行った。また、都内の自治体で構成される、ひきこもり・生きづらさをかかえる女性支援事業「TOKYO

広域連携事業」に協力し、各地域の取組の共有及び先進事例の視察等を通じて、調布市での今後の展開について検討を進めた。

- 子ども食堂やフードパントリー等に取り組む団体数が40を超えた。実施方法や運営上の悩み、地域の課題について、年2回の子ども食堂ネットワーク会議で共有した。また、継続した運営支援をするとともに、寄付の取りまとめやメーリングリストを通じた子ども食堂同士の情報交換の場を設けた。
- 調布市社会福祉法人地域公益活動連絡会幹事会に参加し、地域生活課題や今後必要な社会資源について共有した。
- 地域福祉コーディネーター及び地域支え合い推進員を統括する地域福祉統括コーディネーターを配置し、重層的支援体制整備事業や市全域の取組の全体調整を図るとともに、他機関・団体との連絡調整並びに研修等を通じた各コーディネーターの支援力向上に取り組んだ。
- 個別支援及び地域支援に関連する研修に参加するとともに、室田信一氏（東京都立大学准教授）によるスーパービジョン（指導・助言等）を受けて、職員の資質向上に努めた。

○実相談件数

福祉圏域（小学校区）	個別支援	地域支援	合 計
緑ヶ丘・滝坂	33	24	57
若葉・調和	28	37	65
上ノ原・柏野	64	41	105
北ノ台・深大寺	44	38	82
第二・八雲台・国領	24	18	42
染地・杉森・布田	56	34	90
第一・富士見台・多摩川	70	34	104
第三・石原・飛田給	56	53	109
全域・複数圏域 （統括※対応件数）		77 (42)	77
合 計	375	356	731

※地域福祉統括コーディネーター

○延べ活動件数（行動区分）

福祉圏域 （小学校区）	訪問	来所	電話	メール	オン ライン	その他	合計
緑ヶ丘・滝坂	245	45	261	270	3	156	980
若葉・調和	193	85	247	175	8	230	938
上ノ原・柏野	293	126	406	250	9	291	1,375
北ノ台・深大寺	174	59	312	244	11	221	1,021
第二・八雲台・国領	208	59	185	214	0	116	782
染地・杉森・布田	320	110	304	166	6	212	1,118
第一・富士見台・多摩川	252	145	318	217	4	82	1,018
第三・石原・飛田給	396	60	268	581	3	75	1,383
合 計	2,081	689	2,301	2,117	44	1,383	8,615

分析・課題

- 重層的支援体制整備事業の実施において、既存の制度だけでは解決が困難な状態や複合的な地域生活

課題が背景にある相談に対して、多機関協働事業だけでなく地域づくり事業や参加支援事業においても多分野の専門職や関係機関が連携し、支援に取り組めるようにネットワークの構築に努めていく必要がある。

- 「多機関協働事業」において、福祉圏域別専門職等ネットワーク会議で、支援会議及び重層的支援会議に参加した支援関係機関の担当者から意見を伺い、会議の活用方法や会議後の連携の変化等について共有したことで、認知が深まった。
- 「参加支援事業」において、子どもの体験の機会や農福連携、中間就労等、様々な社会参加へのアプローチに向けて、地域生活課題や個人の困りごと等のニーズをつなげられるよう、引き続き地域住民やボランティア、関係機関、企業・商店等に働きかけていきたい。
- ひきこもり・生きづらさ等に関する取組において、他自治体との情報交換や連携により、市を超えて社会資源の把握や創出に向けた動きが生まれた。生きづらさ等を抱える方への支援では「市内では知り合いに会う可能性があるため参加できない」とのニーズがあり、市外の社会資源も含めた情報提供をしながら、関係構築や社会参加につなげていく必要がある。
- 情報発信について、情報が届かない、つながらない方に向けた発信方法について、多様な手段を検討していく必要がある。また、当事者の関心に合ったつながりができるよう、多様な社会資源を地域につくっていくことが求められる。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(13)	ちょうふ地域福祉フォーラム			市	

結果の概要

- 重層的支援体制整備事業の「地域づくり事業」の一環として、「2025 年問題」（第 1 回）と「生きづらさ」（第 2 回）をテーマに勉強会を開催した。

<第 1 回>

- 多様な立場・経験を持った登壇者から、地域の課題や現場の実情、活動のやりがい等を共有してもらい、参加者一人ひとりが「2025 年問題」を「どこか遠い話」から「身近なこと」として捉え、地域づくりに関わるためのヒントとなることを目的に開催した。
- 登壇者によるフリットークでは、地域の現状、活動のきっかけ、参加者へのメッセージ等、それぞれのエピソードをもとに語り合った。「自己責任論が強まる社会で次世代に負担を残さないため、重い現実を漫画という親しみやすい形で社会へ伝えたい」、「看護師としての経験に加え、両親の看取りを経て家族の立場を学び、同じ後悔をしてほしくないとの思いで活動を始めた」といった具体的な動機が語られ、福祉や介護を「自分ごと」として考えるきっかけとなった。
- グループワークでは、「気軽に相談できる関係づくり」、「男性の参加促進の工夫」、「地域施設の活用提案」等、活発な意見交換が行われた。

<第 2 回>

- 第 6 次調布市地域福祉活動計画の市全域目標の一つ「ひきこもり・不登校を隠したくなる社会を変える」に基づき、当事者・家族の「社会にあるひきこもりや生きづらさへの偏見を知ってほしい」、「当事者や家族、そこに関わる方の想いを伝えたい」、「調布市のひきこもりの現状を伝え、地域の方に知ってもらい、地域で何ができるかを一緒に考えたい」との想いをもとに開催した。
- トークセッションに、調布市内で活動している「調布やまぼうしの会（ひきこもり家族会）」及び「ちょうふのこやど（生きづらさ当事者会）」のメンバーが登壇し、当事者・家族の声を伝えるとともに、活動を知ってもらう機会とした。

○当日、「調布やまぼうしの会（ひきこもり家族会）」の登壇者は、別会場で参加し、声のみの出演とした。「なぜ姿を隠して声だけで参加なのか」を来場者それぞれで考えてもらう機会となった。

実績等

<第1回>

タイトル	地域とわたしのこれから作戦会議～身近な困りごとや支え合いを“わたしごと”にする 90分～
日にち	2月8日
会場	POST0
内容	(1) 登壇者によるフリックトーク ・藤原 恵氏（笑むけあ代表・看護師・ケアビューティスト・フォトグラファー） ・大澤 奈保子氏（ダブルケアの啓発活動「タズラボ」運営） ・山口 博之氏（調布市地域デビュー推進委員会委員長・スピードの会） ・中浜 崇之氏（株式会社 Salud 代表取締役・介護福祉士） ・小嶋 泰之氏（調布市地域包括支援センターときわぎ国領） (2) グループワーク 参加者同士で情報交換を行う。 (3) グループワークの発表及び質疑応答
参加者	20人

<第2回>

タイトル	生きづらさから考える地域づくり～ひきこもること、生きること～
日にち	3月28日
会場	調布市総合福祉センター 201～203 会議室
内容	(1) 基調講演 上田 理香氏（一般社団法人 SHIP ひきこもりと共生社会を考えるネットワーク） (2) トークセッション ・ファシリテーター 上田 理香氏 ・登壇者 富安 義樹氏（ちょうふのこやど） K 氏（調布やまぼうしの会） 美智子氏（調布やまぼうしの会） 坂本 祐樹（子ども・若者総合支援事業ここあ）
参加者	54人

分析・課題

<第1回>

- 介護経験者や活動者、支援者等がそれぞれの立場から発信することで、「自分のこれからのこと、身近な人のこと、地域のこと」を改めて考える機会となった。また、多様な背景のある参加者同士で意見交換をすることで、新たなコラボレーションが生まれる等、ネットワークが広がる契機となった。
- 会場を地域の居場所である POST0 で実施したことにより、偶然訪れた方が参加する等、これまで福祉と関わりの少なかった地域住民が福祉を身近に感じる機会となった。

<第2回>

- 講師の話やトークセッションを熱心に聞き入る参加者の姿が多く見られた。また、アンケートの回収率も高く、当テーマに対する関心の高さが伺えた。
- 当事者・家族の声を直接伝えることで、ひきこもりや生きづらさに対する理解を深める機会となった。今後も、当事者・家族の想いを発信する場を設けていきたい。
- アンケートでは、「地域や自治会でできることを考えたい」との感想があった。生きづらさを抱えた方を地域でどのように支えていけるか、地域住民や関係機関とともに引き続き考えていきたい。